
介護と医療の連携推進業務委託 報告書

目 次

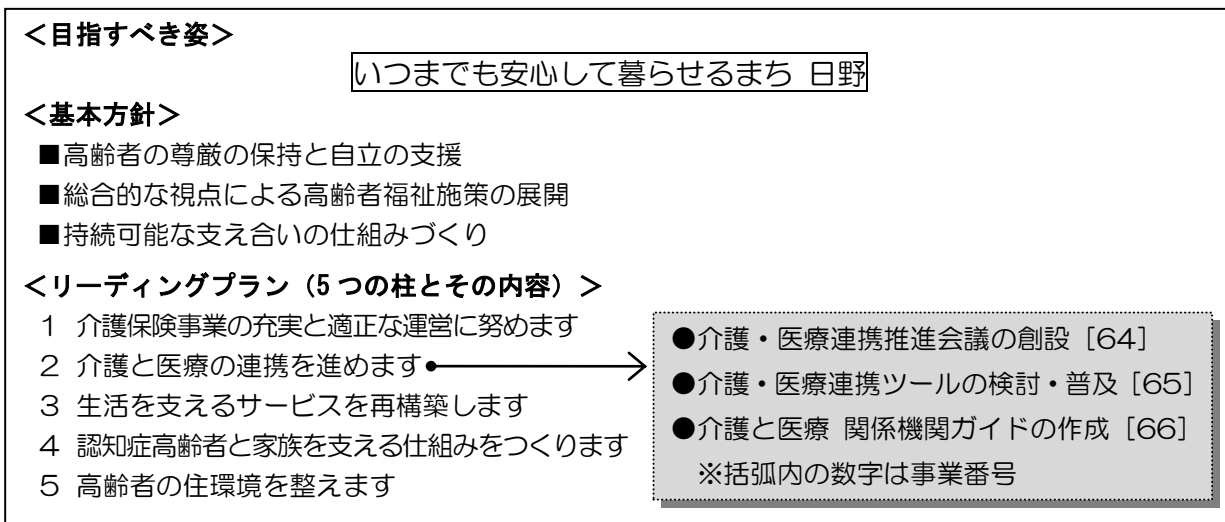
1 業務の概要	1
1-1 業務の目的	1
1-2 業務の進め方	1
2. 日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催	3
2-1 会議の概要	3
2-2 各回の内容	4
3. 介護と医療の連携シート等の効果検証	11
3-1 調査の概要	11
3-2 調査結果	12
4. 多職種協働による会議の開催	21
4-1 会議の開催状況	21
4-2 各会の内容	22
5. 国、東京都・他自治体の取組等の調査	25
5-1 調査の実施状況	25
5-2 他自治体等の取組内容	26
6. 次年度の取組方針の検討	29
6-1 検討部会の開催	29
6-2 介護と医療の連携シートの改善	29
6-3 他職種協働による会議の開催	29
6-4 国、東京都・他自治体の取組等の調査	29

1 業務の概要

1-1 業務の目的

本業務は、平成24年3月に策定された日野市高齢者福祉総合計画（平成24年度～平成26年度）の中で、リーディングプランの柱の1つに位置づけられた「介護と医療の連携」の推進と、これにより在宅療養環境の向上を実現することを目的として実施するものである。

▼日野市高齢者福祉総合計画（平成24年度～平成26年度）における位置づけ

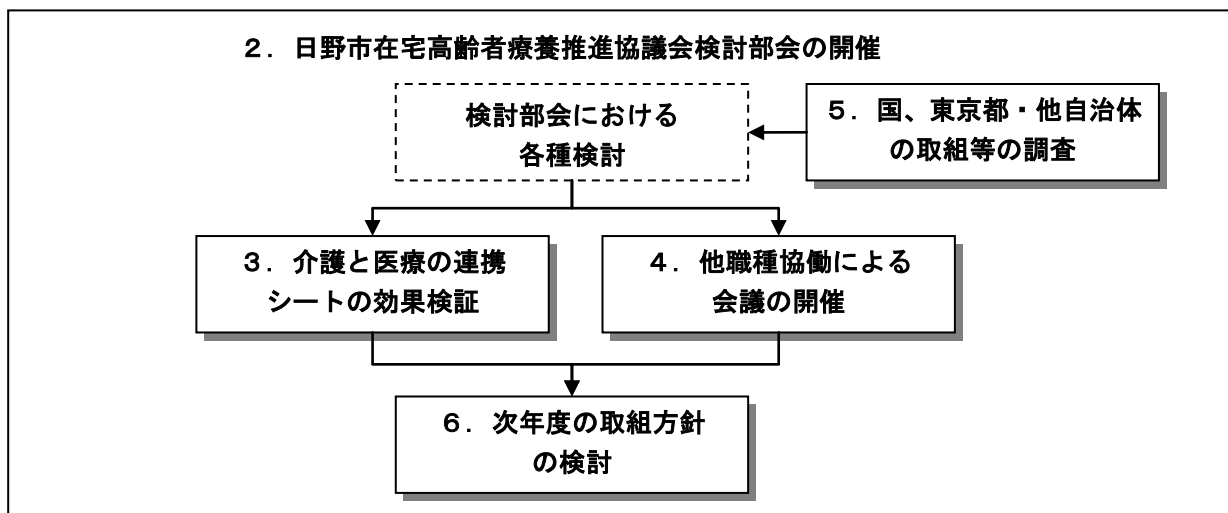


1-2 業務の進め方

「介護と医療の連携」に向けた具体的な検討を行う「日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（以下、「検討部会」）」の開催を中心に業務を進めた。「検討部会」では、特に平成25年度に作成し平成26年度から本格運用を開始した「介護と医療の連携シート等の効果の検証」と新たな取組となる「多職種協働による会議の開催」の2つを柱に検討を行ったほか、これと並行して、検討の際の参考となる国、東京都・他自治体の取組等の取組等の調査も行っている。

これを図示すると以下の通りである。

▼業務の進め方



2. 日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催

2-1 会議の概要

「検討部会」は、在宅療養環境の向上及び介護と医療の連携体制の構築等に関する取組について具体的な検討を進めるために、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、協議会）のもとに設置された会議体である。平成25年度より、介護と医療の連携に特に関わりの大きい「医師会」「歯科医師会」「薬剤師会」「訪問看護ステーション協議会」「市立病院」「在宅介護事業者協議会」「ケアマネ協議会」「地域包括支援センター連絡会」の8団体の代表者と事務局である日野市高齢福祉課を構成員に定期的に活動している。

平成26年度は、2ヶ月に1回のペースで検討部会を開催し、前述の「介護と医療の連携シート」ほかの効果の検証」「多職種協働による会議の開催」ほかの検討を行った。また、この際には、日野市における介護と医療の連携のあるべき姿に関する現場の状況を踏まえた具体的な提言や、各職種の取組に関する定期的な情報交換も行われるなどとても有意義な場となっている。

全6回の開催日程と主要な検討テーマは以下の通り。

▼検討部会の開催日程と主要な検討テーマ

回数	日程	主要な検討テーマ
第1回	平成26年5月20日	○日野市の多職種連携が目指す方向性について ○研修会・勉強会の実施方法について
第2回	平成26年7月8日	○連携ガイド・シートの効果検証の方向性について ○研修会・勉強会の開催方法について
第3回	平成26年9月16日	○勉強会の開催方法について ○その他の提案について
第4回	平成26年11月25日	○今後の進め方について ○連携ツールの検証について
第5回	平成27年1月13日	○検証アンケートの実施方法について ○勉強会第2段階の内容等について
第6回	平成27年3月17日	○連携推進に関するアンケートの結果について ○アンケートの結果を踏まえた来年度の取組について

▼会議の様子



2-2 各回の内容

2-2-1 第1回検討部会

第1回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成26年5月20日（火） 18：30～20：40
開催場所	：市役所 502 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：関課長、松田係長、吉沢、佐藤（以上、高齢福祉課）、吉田、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【報 告】 1. 高齢福祉課長挨拶 2. コンサルタントの紹介 3. 平成26年度の検討事項とスケジュール案の紹介 【議 題】 1. 連携ガイド・シート運用開始後の状況の確認 2. 日野市の多職種連携が目指す方向性の検討 3. 研修会・勉強会の実施方法の検討 4. その他
配付資料	【事前配布】 なし 【当日配布】 次第、前回議事録、第1回検討部会資料
結 論	1. 勉強会は、“様々な職種の人を招いて話を聞く”“多職種が集まってグループワークをする”の2つを基本に開催方法を検討する。 2. 日野市の多職種連携が目指す方向性については勉強会で検討を行うこととする。 3. 連携ガイド・シートの検証方法と勉強会の具体的プログラムについては、次回事務局が提出する叩き台をもとに具体的な検討を行う。

2-2-2 第2回検討部会

第2回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成26年7月8日（火） 18：30～20：40
開催場所	：市役所 505-2 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、ひのケアマネ協議会川本氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：松田係長、吉沢（以上、高齢福祉課）、吉田、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【報 告】 1. 前回会議の確認 2. 連携ガイド・シートの活用状況 【議 題】 1. 連携ガイド・シートの効果検証の方向性 2. 研修会・勉強会の開催方法 3. その他
配付資料	【事前配布】 次第、資料1（前回議事録）、資料2（第2回検討部会資料）、別紙1（連携シート使用依頼書(案)）、別紙2（アンケート調査票の構成(案)） 【当日配布】 アンケート調査票(案)
結 論	1. 効果検証を行う前にツールの使い手側の意識を変える必要があるため、研修会・勉強会を1～2回開催し、その後年度末にアンケート調査を実施する。 2. 研修会・勉強会は以下の要領で開催する －1回限りではなくその後も継続することを狙って、堅い話とグループワークを組み合わせたプログラム －初回は、10月の金曜日夜19時または19時30分から －初回は、各団体の連携に興味がある人3～5名程度が対象 3. 研修会・勉強会の開催にあたって、事務局はその開催日程と簡易プログラムを各委員に連絡する。

2-2-3 第3回検討部会

第3回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成26年9月16日（火） 18：30～20：30
開催場所	：市役所 505-2 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、ひのケアマネ協議会川本氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：関課長、松田係長、吉沢、佐藤（以上、高齢福祉課）、吉田、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【報 告】 1. 第2回検討部会の振り返り 2. ケアマネ研修会の報告 【議 題】 1. 勉強会の開催方法について 2. その他の提案
配付資料	【事前配布】 次第、資料1（第2回検討部会議事録）、資料2（ケアマネ研修会の記録（資料&DVD））、資料3（第3回検討部会資料） 【当日配布】 介護と医療の連携勉強会説明資料(案)
結 論	1. 勉強会を以下の要領で開催する。 －連携の輪を広げることを主要な目的に、コアとなるメンバーに声をかけて、その具体的な方策について継続して検討していく会とする －第一回勉強会は各団体から連携に関心を持つ人に声をかけて、その後は随時参加者を追加しながら雪だるま式に仲間を増やしていく －当日は座席の配置を慎重に設定した上で、テーブル毎にメンバーを固定して話し合いを行う 2. 勉強会の開催にあたって、以下の作業を急いで行う。 －検討部会委員は、各団体からの参加者をメールで日野市に通知する －日野市は参加者に開催案内を送付する 3. その他の提案（情報発信はと情報収集）については、より良いやり方を検討した上で、改めて実施の是非について検討することとする。

2-2-4 第4回検討部会

第4回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成26年11月25日（火） 18：30～21：00
開催場所	：市役所 101 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、ひのケアマネ協議会川本氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：関課長、松田係長、吉沢（以上、高齢福祉課）、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【報 告】 1. 介護と医療の連携推進勉強会の振り返り 【議 題】 2. 今後の進め方について 3. 連携ツールの検証について 4. 今後のスケジュールについて 5. その他
配付資料	【事前配布】 第4回検討部会資料、意見交換のまとめ（介護と医療の連携推進のための勉強会）、アンケートの集計結果（同左） 【当日配布】 第3回検討部会議事録
結 論	- 勉強会の結果を以下の要領で各団体・事業所に周知を行う。 - 一日野市から会の開催報告、意見交換のまとめの概要、同詳細を送付する - 送付先は参加者と協議会等の主要団体、介護系については全事業所とする - 今後の進め方については以下の通りとする。 - 全体では2段階制を基本に以下の勉強会を開催する。 - 今回の勉強会と同じ“ゼロ回目”を継続して開催（①） “ゼロ回目”を3回程度開催後、その参加者を対象に第2段階の会を開催（②） ①、②の結果を受けてテーマ勉強会や研修会等への展開を目指す（③） - 勉強会の開催と並行して職種（協議会）毎に以下の対応を検討する。 - 協議会毎にそれぞれの職種に対する評価や出された課題について対応を検討する（②'） ②'での検討の結果を受けて、各職種の協議会主催による講習会等を開催し、自職種の意識改革や他職種への情報提供を行う（③'） - 次年度は最低でも以下を実施してルーチンを確立することを目指す。 “ゼロ回目”の勉強会（①）を数回開催 - 第2段階の勉強会（②）または各会からのコンテンツの提供（③'）を1回開催 - 次回の勉強会はメンバーを変えて“ゼロ回目”の勉強会をもう1回開催する。 - 開催にあたっては以下を基本に呼びかけを行う。 - 各職種4人（継続参加1人+新規3人で4テーブルを構成） - 特に人数が多い職種は上記の倍程度までの参加を可とする - 新規の確保が困難な場合は継続参加や上記人数より少ないことも可とする - 前回参加者に対しては勉強会後の懇親会へのお誘いを行う - 連携ツールの検証については、新たな実施方針のもとでアンケート調査を実施する - 今後のスケジュールとして、勉強会および検討部会を以下の通り開催する。 - 勉強会：2月20日（金）19：30～ - 検討部会：1月13日（火）18：30～

2-2-5 第5回検討部会

第5回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成27年1月13日（火） 18：30～21：00
開催場所	：市役所 502 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、ひのケアマネ協議会川本氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：関課長、松田係長、佐藤、吉沢（以上、高齢福祉課）、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【議 題】 1. 検証アンケートの実施方法 2. 次回の勉強会の開催内容 3. 勉強会第2段階の内容等 4. 第6回検討部会の開催日程 5. その他
配付資料	【事前配布】 第4回検討部会議事録、第5回検討部会資料、アンケート実施方針及び調査票案、次回勉強会関連資料案①（次第・説明内容たたき台）意見交換のまとめ（介護と医療の連携推進のための勉強会）、アンケートの集計結果（同左） 【当日配布】 アンケート関連資料案（封筒および催促用ハガキ）、次回勉強会関連資料案②（開催案内・アンケート・質問票）
結 論	1. 検証アンケートについては以下の要領で発送作業を進めることとする。 －各委員からの指摘事項（次項参照）を反映し、事務局で最終確認を行う －翌週前半には発送が完了できるよう準備を進める 2. 次回の勉強会の開催内容については以下の通りとする。 (1) 通知の方法 －参加者を各協議会が選任し、市が各委員からの報告を受けて通知を送付する（懇親会出席者数も各委員が確認して市へ報告、市から幹事へ連絡する） (2) 資料の内容 －開催通知に参加者概要や人数、前回の開催概要、写真等を貼付してグループワークのイメージが湧くようにする －当日説明資料は各委員からの指摘事項（次項参照）を踏まえ修正する 3. 勉強会第2段階の内容については以下を基本線に今後も検討を進めることとする。 －介護と医療を混ぜることを原則に、「地域毎」や「課題を抱える職種同士」といった組合せでグループワークを行う －3月に柏市のプログラムを試行して、その内容を参考にする 4. 第6回検討部会は以下の日程で開催する。 －3月17日（火）18：30～ 5. その他、勉強会への参加を希望している柔道整復師会への対応については、当面は介護保険に関わる事業所の範囲の関係づくりを優先するため、参加をお断りする。

2-2-6 第6回検討部会

第6回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成27年3月17日（火） 18：30～21：30
開催場所	：市役所 502 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表本間氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会会長松崎氏、ひのケアマネ協議会川本氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：関課長、松田係長、吉沢、佐藤（以上、高齢福祉課）、熊井（以上、梵まちづくり研究所）
プログラム	【報 告】 1. 第2回連携推進勉強会の結果報告 2. 連携推進に関するアンケートの結果報告 【議 題】 1. 介護と医療の連携推進に係る来年度の取組について 2. 平成27年度第1回検討部会の開催日程について 3. その他
配付資料	【事前配布】 次第、アンケート結果報告（速報版）、第2回勉強会開催報告（案）、同アンケートのまとめ 【当日配布】 第5回検討部会議事録、第6回検討部会資料
結 論	1. 平成26年度に取り組んだ勉強会および連携ツールは現在の内容を基本に、引き続き改善に取り組んでいくこととする。 2. 勉強会で出された質問については、各協議会と事務局が対応を検討する。 3. 平成27年度は以下の要領で活動することとする。 — 年3回の勉強会のうち、第1段階目の勉強会を2回、最後の3回目に第1段階の修了者を対象にした第2段階の勉強会を開催する。 — 基本型のできた第1回目の勉強会については日程の調整程度とし、年度末の第2段階の勉強会に向けた準備を検討部会の中で時間をかけて進めて行く。 — 検討部会の開催は年3回を基本とし、必要に応じて臨時開催も行う。 4. 平成27年度第1回目の検討部会および勉強会は以下を候補に日程の調整を行う。 — 検討部会：5月12日（火） — 勉強会：6月26日（金）

3. 介護と医療の連携シート等の効果検証

3-1 調査の概要

当初は、平成25年度に作成し平成26年度から本格運用を開始した「介護と医療の連携シート」の効果検証を主要な目的としていたが、検討部会（2章）で検討を行う中で、介護と医療の連携に関する今後の検討材料を得るため調査項目を拡大して実施することとなった。

調査の概要は以下の通りである。

▼調査概要

調査目的	：以下の2点を目的とする。 1. 平成25年度に作成した「多職種連携ガイド」および「連携シート」の使い勝手等を確認し、改善点を把握する 2. 今後の取組の方向性を検討する材料として、市内の連携の実態と現在の課題、関係者の要望等を明らかにする
調査期間	：平成27年1月19日（月）～2月2日（月） （実際には、3月末日までにポストに投函された回答を集計した）
調査対象	：介護と医療の連携関係する市内の全事業所 計479所 一 病院・診療所 112所 一 歯科診療所 85所 一 調剤薬局 71所 一 介護事業所 211所（訪問看護事業所を含む） ※複合事業所は業務内容毎に重複してカウントする
調査方法	：アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
配布・回収	：配布数 479通（内訳は上記参照） ：回収数 283通 ：回収率 59.1%
調査項目	1. 回答者属性【問1～2】 2. 介護と医療の連携（他職種の連携）の現状【問3～4】 3. 今後必要な取組【問5～7】 4. 勉強会【問8～10】 5. 連携ツール（連携ガイド・連携シート）全般【問11～14】 6. 連携ガイド【問15～19】 7. 連携シート【問20～24】 8. 自由記述欄

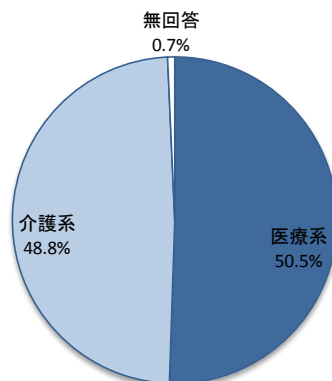
3-2 調査結果

3-2-1 回答者属性【問1・2】

- (回収率に差はあるものの) 医療系と介護系がほぼ同数

介護系の回収状況の内訳

業務内容	配布	回収	回収率
居宅介護支援事業所	40	35	87.5%
訪問介護系事業所	38	25	65.8%
通所介護系事業所	52	35	67.3%
短期入所系事業所	12	5	41.7%
地域密着型事業所	19	13	68.4%
入居施設系事業所	20	12	60.0%
地域包括支援センター	9	9	100.0%
その他	11	4	36.4%
合計	201	138	68.7%

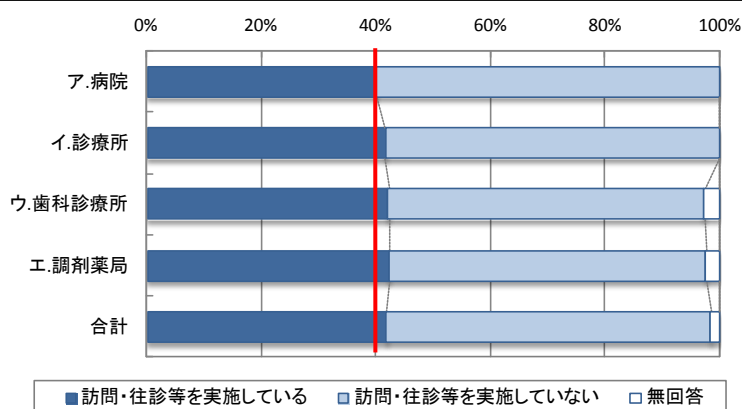


医療系の回収状況の内訳

業務内容	配布	回収	回収率
病院	6	5	83.3%
診療所	106	48	45.3%
歯科診療所	85	38	44.7%
調剤薬局	71	45	63.4%
訪問看護事業所	9	6	66.7%
訪問リハビリ事業所	1	1	100.0%
合計	278	143	51.4%

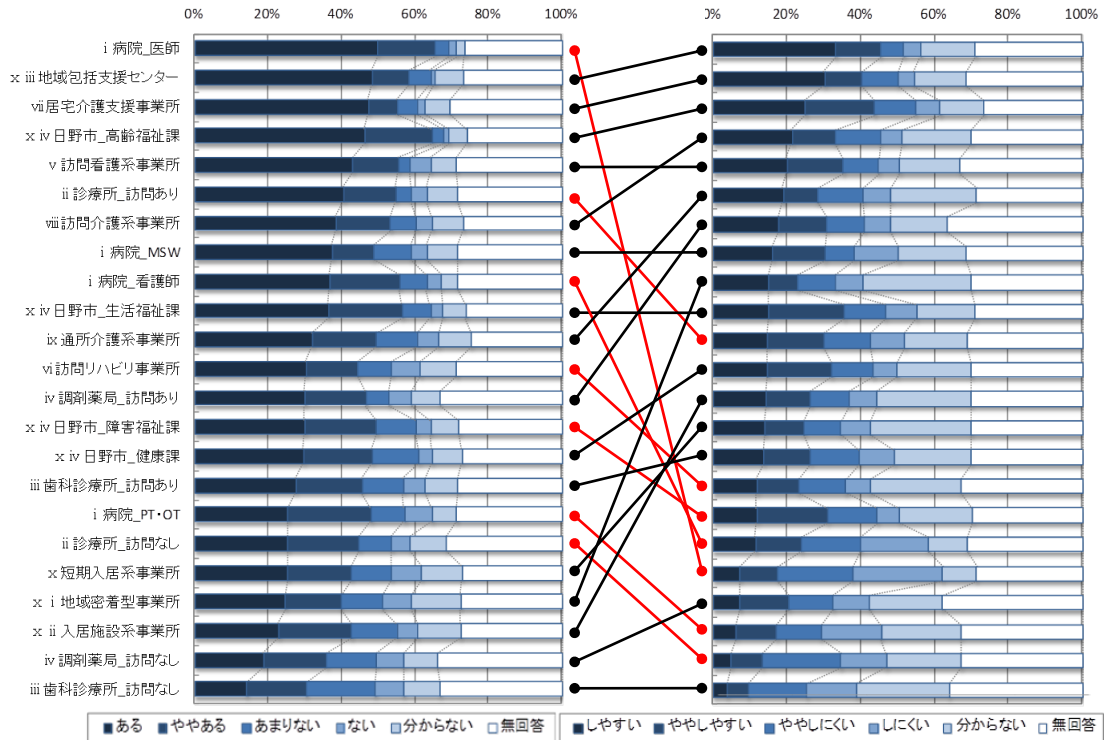
※無回答は、回答がなかったもの1件と、複数の業務内容に“○”がついていた(複合事業所と思われる)もの1件の計2件
 ※「その他」は「福祉用具貸与、販売」が該当

- 病院・診療所・歯科診療所・調剤薬局の中で在宅医療の取り組んでいるのは、回答者の40%強で同程度

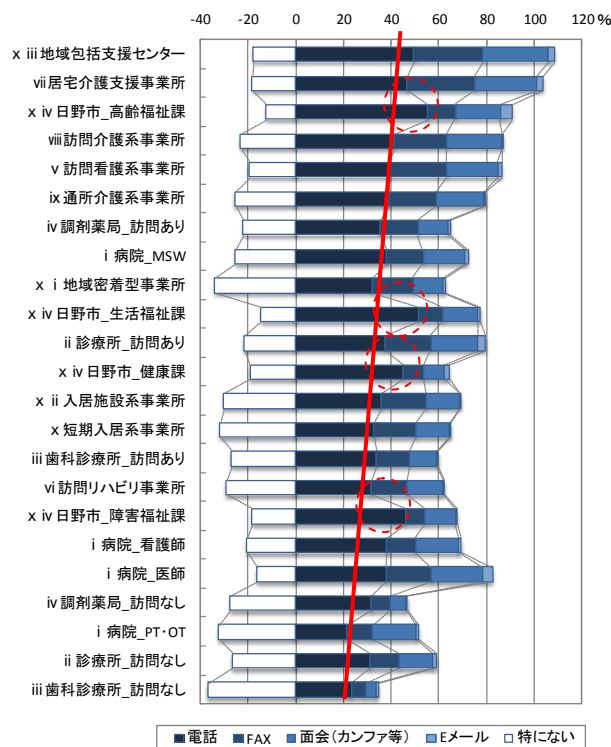


3-2-2 介護と医療の連携（他職種の連携）の現状【問3・4】

- 連携の必要性が高いのは、病院の医師、包括、ケアマネ、高齢福祉課、訪看、診療所などで、これらは概ね職種の偏りが少なく、満遍なく必要性が高い
- 連携がしやすいのは、包括、ケアマネ、高齢福祉課、訪問介護 など
- 必要性が高いのに連携がしづらいのは、病院医師、診療所、病院看護師 など



- 連携の方法は、1 電話、2 FAX・面会（1の約半分）、3 Eメール（ほとんどない）
- ②連携のしやすさ の評価が高い業務内容を上から並べてみると（下図）、電話のしやすさが連携のしやすさに影響が大きい様子がうかがえる（日野市を除く）



- 自由回答（問4）の中で、特に連携をとりたい相手／とりたい相手としてあげられているのは、医師・看護師がもっと多く、特に病院との連携に困難を抱えている様子
- その要因は以下の通り。
- 他には、ケアマネジャー、地域包括支援センター、日野市があげられている



「話がしづらい」「つかまらない」「返事がもらえない」「個人情報の壁がある」といった理由で医師・看護師と連携がとりづらい

特に病院（私立病院やその他の大病院）は直接話ができないので連携がとりづらい

- 他には、多職種と連携をはかる上で困っていることとして、以下のような指摘があった
 - －「こんな情報が欲しい（患者さんの状況など）」
 - －「連携を図るべき相手・連携の方法が分からない」
 - －「相互理解が足りない（こちらのことを知って／一方的な主張をしないで）」
 - －「緊急時の対応窓口がない」
 - －「ケアマネが間に入るとやりづらいことも／ケアマネを飛ばして連携を進めるべきではない」
 - －「やる気はあるのに声がかからない」
 - －「業務上連携が難しい」
- アンケート調査票最後の自由記述欄で指摘された事項とあわせて、現在の課題は大きく以下の通り整理することができる



目指すビジョンの明確化：

「連携を図るべき相手・方法が分からない」「地域ケア会議などとの関係を明確にして欲しい」「ケアマネを飛ばして連携を進めて良いのか」

顔合わせや相互交流の機会の提供：

「お互いに求めていることが理解できていない」「自分達の業務内容を理解して欲しい」「やる気はあるが声がかからない」

情報の受発信の仕組みや習慣づくり：

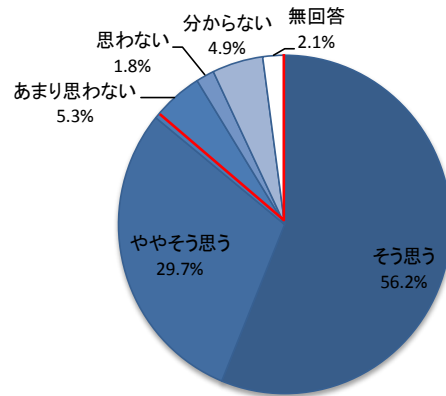
「患者さんの状況等を知りたい」「医療機関を斡旋して欲しい」「勉強会等の情報をもっと発信して欲しい」

より高度なシステムに関する課題：

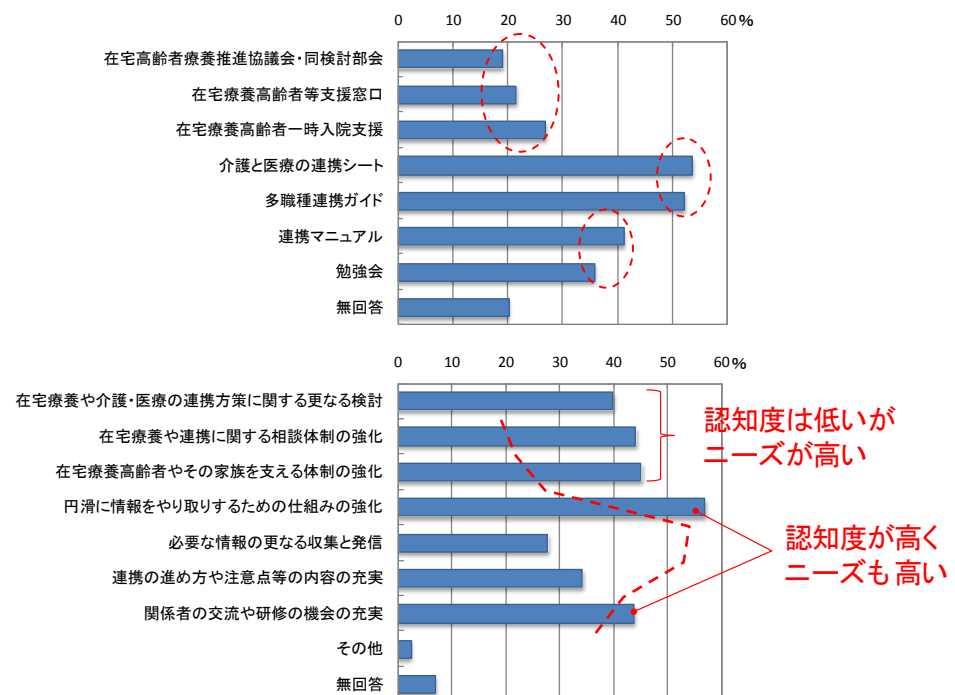
「緊急時の対応窓口がない」「ある程度は個人情報の開示が必要」「ICTの導入が必要」

3-2-3 今後必要な取組【問5～7】

- 介護と医療の連携、多職種の連携に今後積極的取り組んでいきたいと考える事業所が「そう思う」「ややそう思う」をあわせて80%超
- 職種別に見てみると「そう思う」事業所の比率は、概ね介護系・病院＞調剤薬局＞診療所・歯科診療所となっている

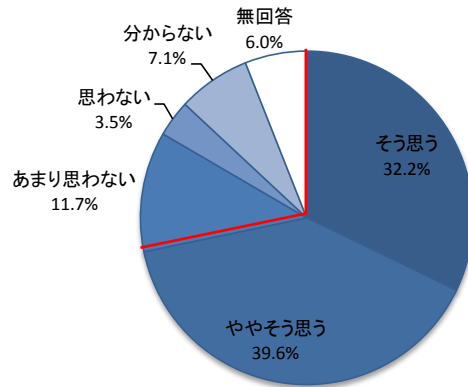


- 現在実施している取組では、連携シート・連携ガイド＞連携マニュアル・勉強会＞検討会議・支援窓口・一時入院支援 の順に認知度が高い
- 1、2番目のグループは介護系中心、3番目は病院・診療所中心に認知度が高いという偏りがある
- 今後必要な取組では、情報をやりとりするための仕組み（連携シートに該当）＞交流や研修の機会、高齢者やその家族を支える体制、相談体制、連携方策の更なる検討などが多い



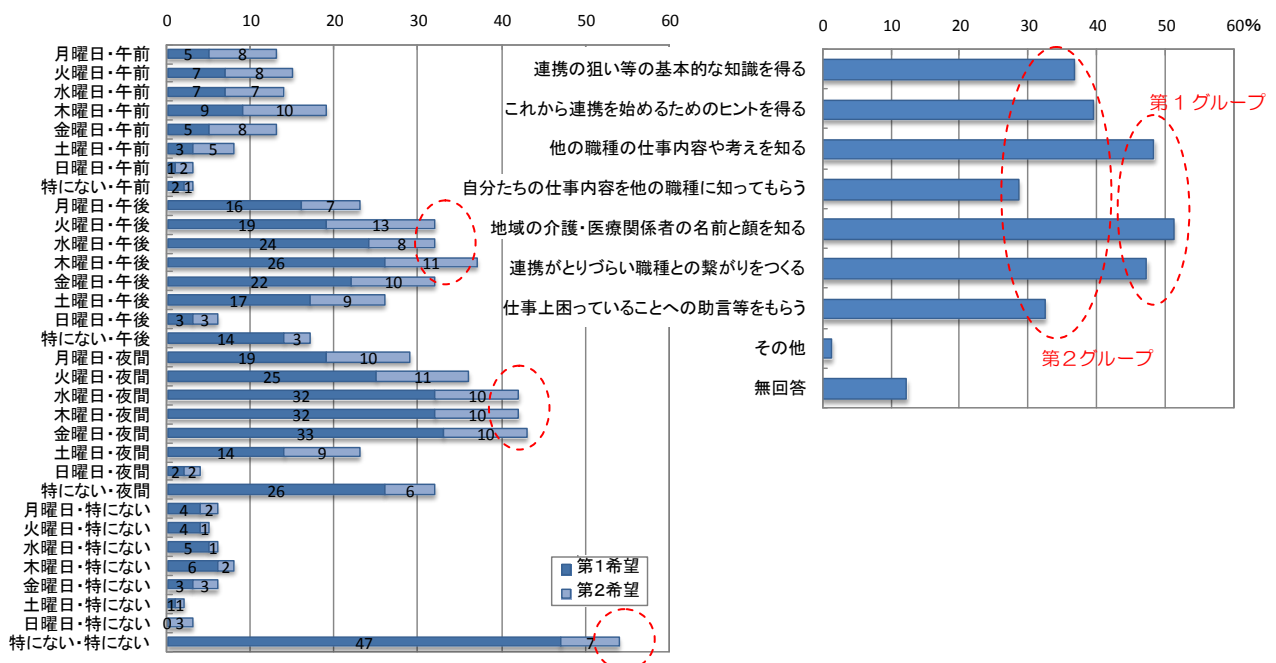
3-2-4 勉強会【問8～10】

- 勉強会に参加してみたいと思う考える事業所が「そう思う」「ややそう思う」をあわせて70%強
- 職種別には、介護系全般＞通所介護系＞訪問リハ・福祉用具・歯科診療所・調剤薬局＞病院・診療所 の順で多い
- もっとも希望の少ない病院・診療所の参加希望は30～40%程度



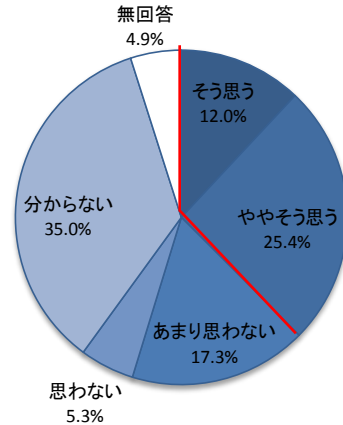
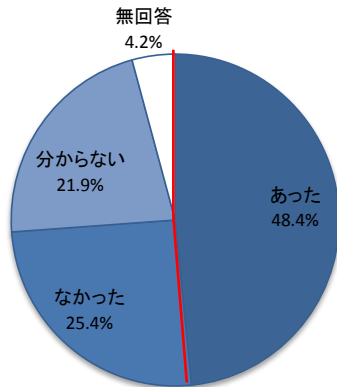
- 開催する曜日・時間帯の希望は「特にない」が最も多く、次いで夜間（週の後半）、午後（週の中頃）が多い
- 週末の希望はあまり多くない
- 医療系（訪看を除く）は夜間の希望が最も多い

- 勉強会に期待することのトップ3は、「地域の介護・医療関係者の名前を顔を知る」「他の職種の仕事内容や考えを知る」「連携がとりづらい職種との繋がりをつくる」
- 自己PRや技術向上の前に、相手を知りたい・つながりたいという傾向がうかがえる
- このような傾向はおおむね全職種に共通

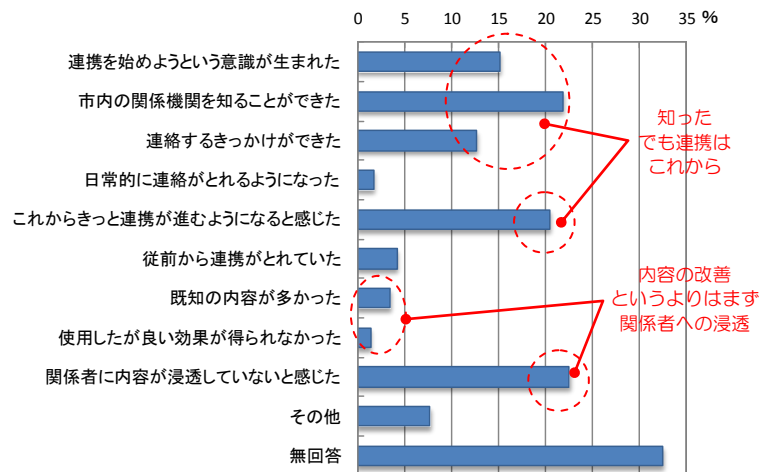
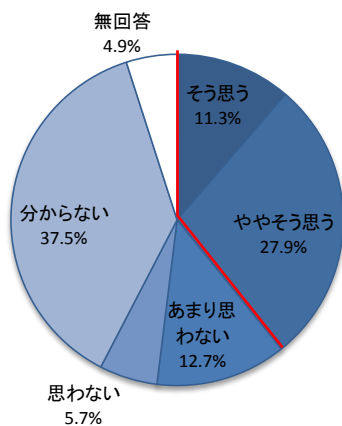


3-2-5 連携ツール（連携ガイド・連携シート）全般【問 11～14】

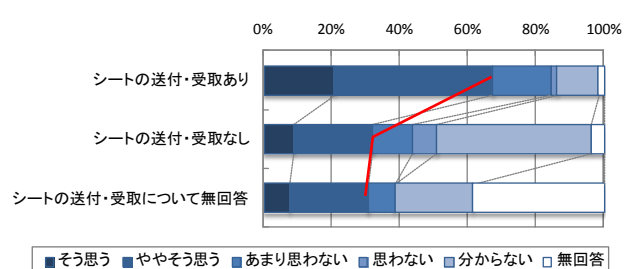
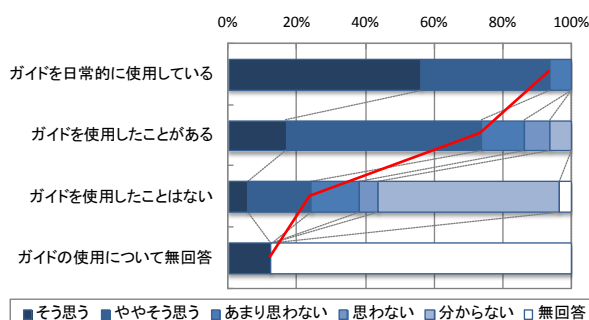
- 「多職種連携ガイド」および「連携シート」について事業所内で説明や回覧があったのは50%弱
- 日野市のPRや説明内容が良かったかをたずねる設問では「そう思う」「ややそう思う」と「分からない」が各1/3強、「あまり思わない」「思わない」も20%強存在



- 連携ツールは多職種の連携に良い効果があったかをたずねる設問では、「そう思う」「ややそう思う」と「分からない」が各1/3強、「あまり思わない」「思わない」も20%弱存在
- そのように考える理由では、「関係者に内容が浸透していないと感じた」が最も多く、「使用したが良い効果が得られなかった」などツール自体のクオリティに対する課題の指摘はあまり多くなかった

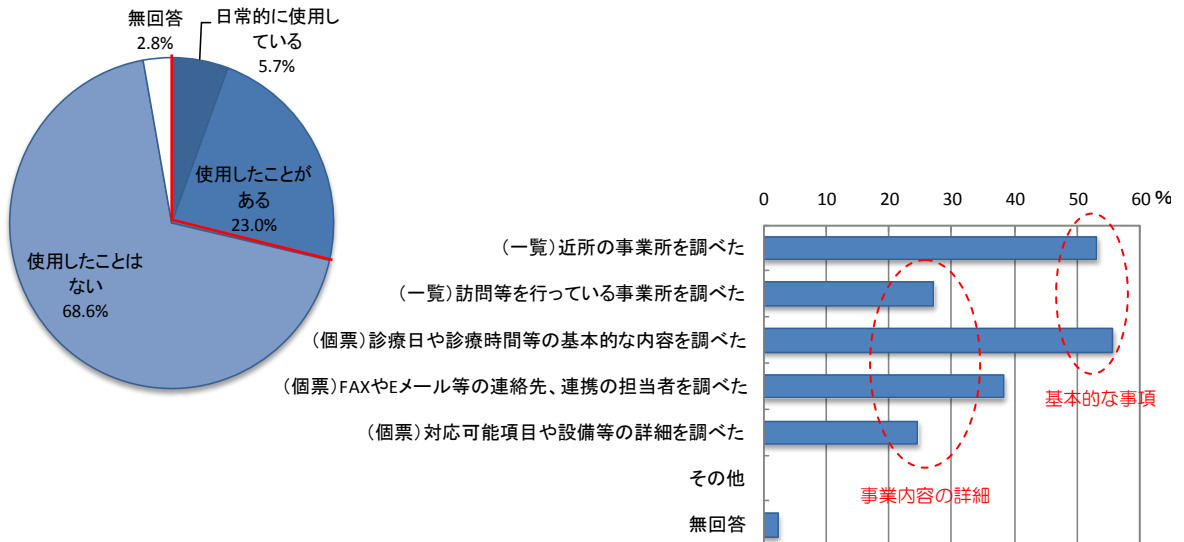


- 連携ガイド、連携シートの使用状況とクロス集計を行うと、これらのツールを使用した事業所ほど評価が高い傾向がある

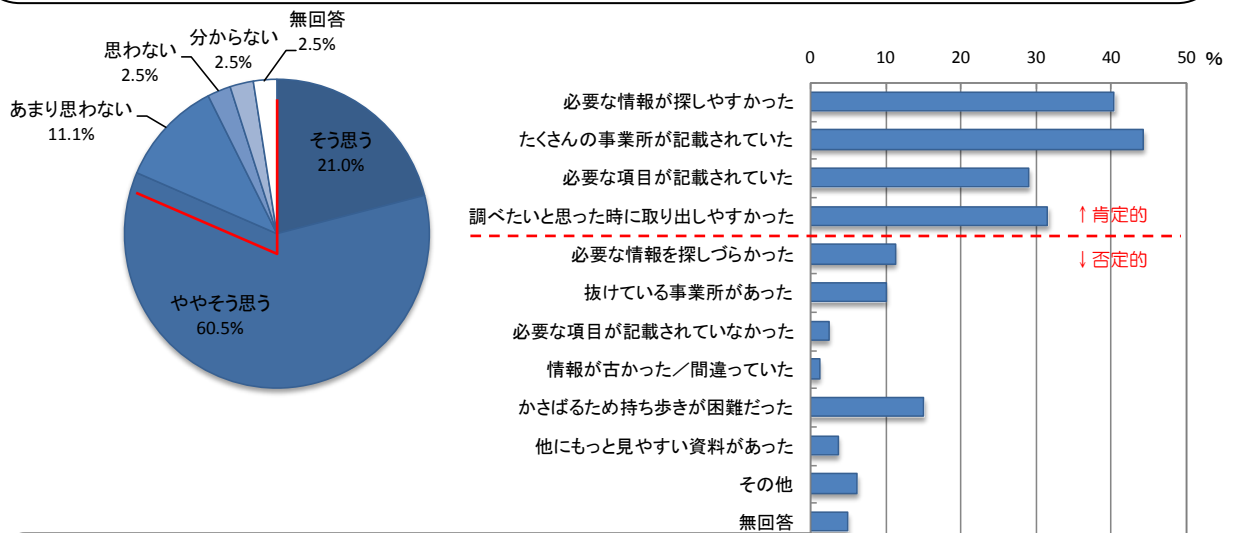


3-2-6 連携ガイド【問 15～19】

- 連携ガイドを「日常的に使用している」が5%、「使用したことがある」が23%とあまり活用されていない
- 使用目的は、近所の事業所の確認（一覧）・診療日等の確認（個票）＞連絡先・連携の担当者の確認（個票）＞業務内容の詳細を確認（個票・一覧）



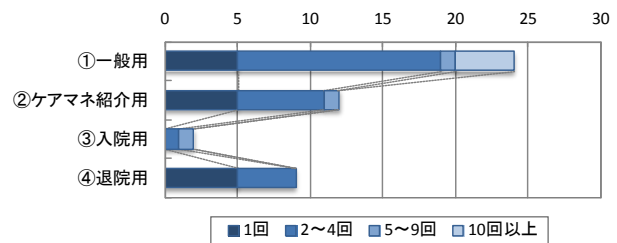
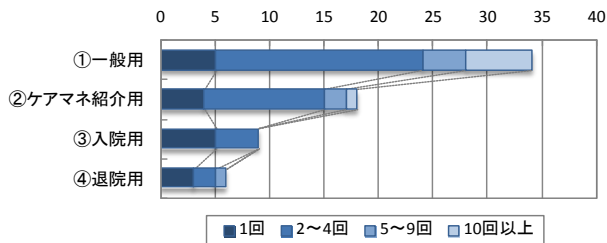
- （使用したことがある事業所に対する）使いやすいものだったかという設問では、「そう思う」「ややそう思う」あわせて80%超と高評価
- この傾向は、業務内容による大きな違いは見られない
- 「あまり思わない」「思わない」と回答する理由としては、「必要な情報を探しづらかった」「かさばるため持ち歩きが困難だった」「抜けている事業所があった」が多い



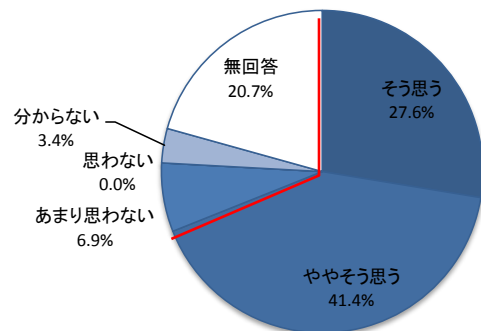
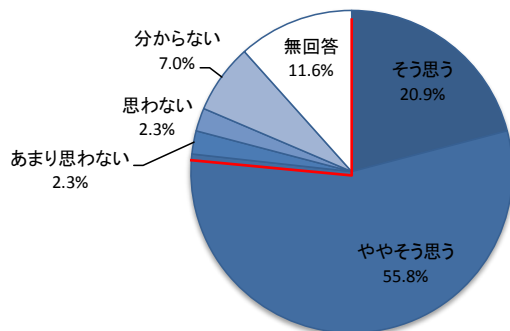
- 良かった項目や追加・改善をした方が良い項目をたずねる自由記述（問18）では、は、「必要な情報を探しづらかった」「抜けている事業所があった」という上記の回答を補足する以下のような指摘があった
 - －「地域で探せると良い（地図の掲載）」「事業所名で検索しやすくなると良い」
 - －「新規の事業所を追加して欲しい」「内容を定期的に更新して欲しい」
- その他、「利用者にコピーして渡せないのでは意味がない」という関係者限定の情報であることに疑問を投げかける意見もあった

3-2-7 連携シート【問 20～24】

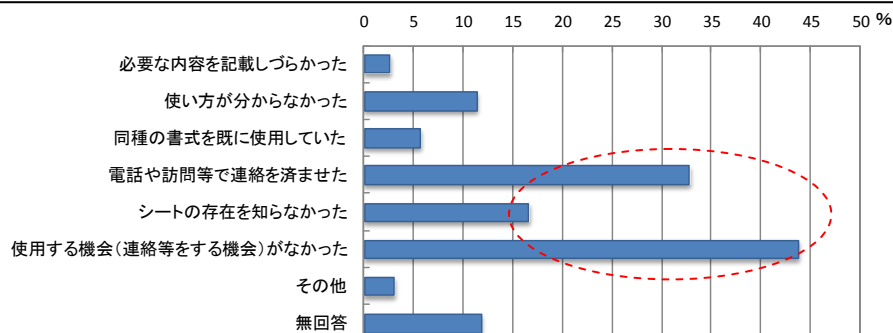
- 使用したことがあるのは43事業所 / 受け取ったことがあるのは37事業所
- 中には10回以上送った／受け取ったという事業所もあるが全体としてはあまり多意図は言えない
- 最も多く利用されていたのは一般用で、様々な用途で活用されている



- (使用したことがある事業所に対する) 使いやすいものだったか、運用方法は適切だったかという設問では、「そう思う」「ややそう思う」あわせて80%弱と両質問とも高評価
- 前者については「まとまっている」「簡便である」、後者については「連絡が取りやすい」「大手を振って使える」点が評価されている
- これらの評価は業務内容によって大きな違いは見られない



- 使用しなかった理由トップ3は、「使用する機会（連絡等をする機会）がなかった」「電話や訪問等で連絡を済ませた」「シートの存在を知らなかった」で、ここでもシートの周知と浸透が課題であることが明らかとなった
- その他、問22～24の自由記述から明らかになったシートの主な改善点は以下の通り
 - 「どのタイミングで出せば良いか分からない」
 - 「見てもらえていないケースがある／見てもらえない恐れがある」
 - 「紙書類が増えるのは面倒である」
 - 「毎回同じ内容を手で書くのは面倒である」
 - 「記入欄が小さく書きにくい／FAXするとつぶれて見にくい」
 - 「特記事項の記入欄が狭く連絡事項が書ききれない」



4. 多職種協働による会議の開催

4-1 会議の開催状況

検討部会（2章）の中で日野市型の会議のあり方について検討を行い、「基本的な情報を知ってもらう」「知りたい情報を集めて提供する」「事例を通じた意識づけを行う」「顔をあわせる機会をつくる」「各職種それぞれの役割をPRする」といった基本的な狙いを確認した。

平成26年度は上記の内容を踏まえ、まず介護側と医療側が顔の見える関係をつくり、両者の間の敷居を下げることを目指して、多職種でのグループワークを中心とした勉強会を2回開催した。さらに、検討部会に参加する個別の業界団体が主催する研修会を2回開催し、知識やスキルの向上を図った。

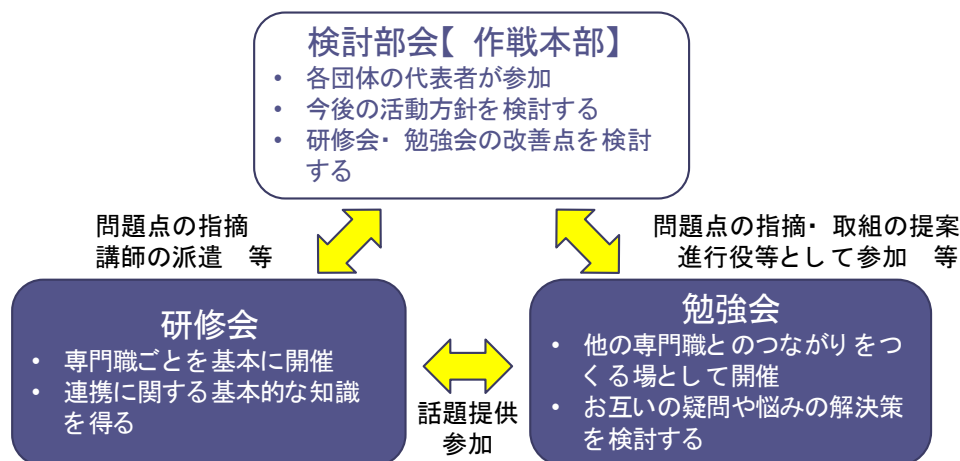
各会議の後にはミニ・アンケートを実施して参加者からの評価を確認しているが、いずれも評価が高く、勉強会、研究会ともに今後も継続して開催する予定である。

▼各会の開催日程等

名称	日程	主催と対象
介護と医療の連携に向けた研修会 （ケアマネジャー研修会）	平成 26 年 8 月 15 日	主催：ひのケアマネ協議会 対象：ケアマネジャー
第 1 回 介護と医療の連携推進勉強会	平成 26 年 10 月 17 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
第 2 回 介護と医療の連携推進勉強会	平成 27 年 2 月 20 日	主催：日野市高齢福祉課 対象：多職種
在宅医療推進のための 地域における多職種研修会	平成 27 年 3 月 28 日	主催：日野医師会 対象：多職種（主に上記勉強会の出席者）

※3/28 に開催された日野医師会 在宅医療推進のための地域における他職種研究会については、次項での詳細な報告は割愛する

▼各会の開催日程等



4-2 各会の内容

4-2-1 ケアマネジャー研修会

検討部会の中で「特に連携を促進する必要がある」という指摘のあるケアマネジャーを対象に、以下を目的とした研修会を開催した。

- 介護と医療の連携を考える上で最も重要な組合せの1つであるケアマネジャーと医師の関係構築を促進する
- 「アンケートの実施前に連携ツールの活用促進を図る」という前回検討会の結論を踏まえて、連携シート等のツールのPRを実施する

当日は、医師、ケアマネジャー双方の視点から連携の必要性や連携シートの活用について説明をする「講義」と、参加者の疑問を解消することを目的とした「パネルディスカッション」を実施し、参加者から高い評価を得ることができた。

▼開催概要

開催日時	：平成 26 年 8 月 15 日（金） 14：00～16：00
開催場所	：レンガホール 小ホール
参加者	参加者 ：ケアマネ協議会の声かけにより集まったケアマネジャー約 40 名 その他 ：日野のぞみクリニック 望月院長、とよだ居宅介護支援事業所 川本所長、日野市高齢福祉課、梵まちづくり研究所
プログラム	1. 開会 ・高齢福祉課挨拶 2. 第一部 講義 ・「介護と医療の連携シートの活用法について」日野のぞみクリニック 望月院長 ・「介護と医療の連携シートの活用と考察」とよだ居宅介護支援事業所 川本所長 (休憩) 3. 第二部 パネルディスカッション ・望月院長、川本所長の 2 人をパネラーに、休憩時間中に集めた会場からの質問に答える形でディスカッションを実施 4. 閉会 ・高齢福祉課挨拶 ・ミニ・アンケートの実施

▼当日の様子



4-2-2 第1回 介護と医療の連携推進勉強会

検討部会を構成する8つの職種の協議会からおおむね3名ずつの参加者を集めて、グループワークを中心とした勉強会を開催した。

グループワークでは、各職種1名ずつでテーブルを囲み、お互いの印象や日頃からの疑問などについてざくばらんに話し合いを行った。参加者からは「自分達がこんな風に思われているとは…」「今までは壁があって話をしづらかったけど、これからは大丈夫」「是非また参加したい」といった声が寄せられる良い機会となった。

閉会後は居酒屋に場所を変えて懇親会を開催したが、こちら也大盛況でより交流を深めることができた。

▼開催概要

開催日時	：平成26年10月17日（金） 19:30～21:30
開催場所	：多摩平交流センター 集会室6
参加者	参加者 ：検討部会を構成する8団体から、自薦・他薦により約30名 その他 ：日野市高齢福祉課、梵まちづくり研究所
プログラム	1. 開会挨拶 2. 趣旨説明 3. 小グループでの意見交換 未使用 自己紹介 未使用 仲良くしたい（連携を図りたい）相手について 未使用 相手との仲を取り持つアイデアについて 4. 全体発表 5. 交流タイム 閉会 ・ミニ・アンケートの実施

▼当日の様子



4-2-3 第2回 介護と医療の連携推進勉強会

第2回の勉強会は、介護と医療の連携の輪を広げるため、参加人数を拡大し、また第1回とは異なる方に声をかけて開催した。またプログラムに関して、今後の継続を見据えてやり方の改善やパッケージ化を図った。

恒例となった懇親会は、第1回の参加者も加わる50名超の大宴会となり、日野市の介護と医療の関係者の輪が広がりつつあることを実感する機会となった。

▼開催概要

開催日時	：平成27年2月20日（金） 19：30～21：30
開催場所	：多摩平交流センター 集会室6
参加者	受講者 ：検討部会を構成する8団体から、自薦・他薦により約40名 その他 ：日野市高齢福祉課、日野市健康課、南多摩保健所、梵まちづくり研究所
プログラム	1. 開会挨拶 2. 基本情報の説明 ・日野市高齢福祉課より 3. 付箋の記入 4. 付箋の紹介と意見交換 ・4テーブルに分かれてのグループワーク 5. 全体発表 ・各テーブルから代表者1名を選出して意見交換の内容を発表 閉会 ・ミニ・アンケートの実施

▼当日の様子



5. 国、東京都・他自治体の取組等の調査

5-1 調査の実施状況

「検討部会（2章）」の検討内容にあわせて参考となる事例の収集を行った。

「介護と医療の連携シート等の効果検証（3章）」に関しては、同様の取組を進める荒川区の状況を確認した。

「多職種協働による会議の開催（4章）」に関しては、まず医療側の歩み寄りが不可欠であるという事前の認識にもとづいて、地域医療や医療と介護の連携に取り組む先進的な事例の調査を行った。その後、前項で示すような勉強会・研修会の狙いが具体的にになってきたため、改めてそのような会議を実際に行っている事例の調査を行うこととした。

次項では、特に「多職種協働による会議の開催」に関連して収集した事例の概要を示す。

▼調査を行った主な取組

調査項目	事例名称
地域医療や医療と介護の連携に取り組む先進的な事例	公立みつぎ総合病院（広島県尾道市）
	医療法人ペガサス（大阪府堺市）
勉強会・研修会を実際に行っている事例	顔の見える関係会議（千葉県柏市）
	三方よし研究会（滋賀県東近江市）
	在宅医療従事者能力向上研修会

5-2 他自治体等の取組内容

5-2-1 事前の情報提供

医療側の歩み寄りが不可欠であるという事前の認識にもとづいて、地域医療に取り組む先進的な事例の調査を行い、こうした取組の中心となっている人物に講演等を依頼することを検討した。

今回調査を行ったのは以下のような事例である。

▼事例①

名 称	：公立みつぎ総合病院（広島県尾道市）
特 徴	：公立病院が中心となり自治体ぐるみで医療・福祉・保険の連携を推進してきた事例である。当該病院は介護保険法の施行以前から「地域包括ケアシステム」を提案してきた先進的な機関としても知られている。
取組内容	：昭和 49 年「寝たきりゼロ作戦」と名付けて始めた訪問介護・訪問リハビリがスタート。リハビリセンターを設置し、患者を積極的に在宅復帰させることに成功。同作戦開始から 10 年間で寝たきりの数は約 3 分の 1 に減少し、医療費の削減にも効果が出ている。 ：現在では、訪問看護ステーションやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所等を傘下に持つ公立みつぎ総合病院と、グループホームやデイサービスセンター、特養、リハビリセンター等を抱える保健福祉総合施設、健診や予防接種、栄養指導等を行う専門職や地域包括支援センター等を抱える保健福祉センターの大きく 3 組織からなる包括的な体制を構築している。 ：このほか、ボランティアや保健福祉推進委員との協働、各地域における健康啓発ワークショップの開催などにも取り組んでいる。

▼事例②

名 称	：医療法人ペガサス（大阪府堺市）
特 徴	：同法人傘下で二次医療を担う馬場記念病院（平成 15 年に大阪府ではじめて地域医療支援病院として認定）が中心となって、1 人の患者が医療から介護までのサービスを垣根なく受けられる体制を構築している事例である。
取組内容	：「登録医制度」により、地域のクリニックの医師約 600 名と連携して、一次診療のお願い、急性期から回復期へ移行した患者の対応のお願いを行っている。 ：約 200 の介護事業所とは、「パートナー事業所制度」により連携体制を構築しており、病院からパートナー事業所職員に対する研修なども実施している。 ：こうした取組をはじめるきっかけは、もともと脳卒中患者を中心とした回復期の患者を受け入れていたことによる。脳卒中は他の疾病よりも後遺症が残る可能性が高く、医療分野のみで完結することができないため地域医療や医療と介護の連携が必要になったということである。 ：また同法人では、こうした患者へのサポートとして、ケア付き高齢者住宅等の運営も行っている。

5-2-2 勉強会・研修会を実際に開催している事例

勉強会・研修会の狙いが具体的にになってきたのにあわせて、こうした会議を実際に行っている事例の調査を行い、日野市型の会の形を具体化するための検討材料とした。

今回調査を行ったのは以下のような事例である。

▼事例①

名 称	：顔の見える関係会議（千葉県柏市）										
特 徴	：グループワークを通じて、毎回 100 人以上（事務局を含めると 150 人以上）の介護・医療関係者が関係構築を図るきっかけを提供している事例である。										
取組内容	：平成 24 年から、柏市と医師会の呼びかけにより、市内の医療・介護関係者が一堂に会し、顔の見える関係を構築する「顔の見える関係会議」を立ち上げ。（平成 22 年度から「医療 WG」「連携 WG」「試行 WG」「10 病院会議」を順次立ち上げて、在宅医療を推進してきた経緯がある） ：平成 24 年 6 月から 3 ヶ月に 1 回程度の頻度で会議を開催し、その成果として多職種連携ルールをまとめた「多職種連携ガイドブック」を作成している。 ：平成 24 年度に実施したプログラムは以下の通り。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 程</th><th>テ ー マ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 平成24年6月</td><td>多職種連携「うまくいった点、いかなかった点」 （ 良い点・悪い点を出し合って対応策を検討／名刺交換）</td></tr> <tr> <td>第 2 回 平成24年9月</td><td>多職種連携推進のために、各職種が在宅生活支援において何ができるか（お互いを知ろう）</td></tr> <tr> <td>第 3 回 平成24年11月</td><td>多職種連携推進のために「地域資源を把握しよう」 （ 住民等からの地域情報の提供／マッピング演習）</td></tr> <tr> <td>第 4 回 平成25年2月</td><td>多職種連携の課題の解決策について「連携の柏ルールを提案しよう」</td></tr> </tbody> </table>	日 程	テ ー マ	第 1 回 平成24年6月	多職種連携「うまくいった点、いかなかった点」 （ 良い点・悪い点を出し合って対応策を検討／名刺交換）	第 2 回 平成24年9月	多職種連携推進のために、各職種が在宅生活支援において何ができるか（お互いを知ろう）	第 3 回 平成24年11月	多職種連携推進のために「地域資源を把握しよう」 （ 住民等からの地域情報の提供／マッピング演習）	第 4 回 平成25年2月	多職種連携の課題の解決策について「連携の柏ルールを提案しよう」
日 程	テ ー マ										
第 1 回 平成24年6月	多職種連携「うまくいった点、いかなかった点」 （ 良い点・悪い点を出し合って対応策を検討／名刺交換）										
第 2 回 平成24年9月	多職種連携推進のために、各職種が在宅生活支援において何ができるか（お互いを知ろう）										
第 3 回 平成24年11月	多職種連携推進のために「地域資源を把握しよう」 （ 住民等からの地域情報の提供／マッピング演習）										
第 4 回 平成25年2月	多職種連携の課題の解決策について「連携の柏ルールを提案しよう」										

▼事例②

名 称	：三方よし研究会（滋賀県東近江市）
特 徴	：「患者にも病院（専門機関）にも地域にも」喜ばれる「三方よし」を合言葉に、各回 100 人程度が参加する事例研究（事例報告と討議）を平成 19 年 7 月から毎月欠かさず開催している事例である。
取組内容	：保健所の呼びかけにより、切れ目のない医療供給体制を構築することを目的とした自主研究会を母体に発足。 ：当初は（脳卒中患者のリハビリの）体制&規則づくりの会議であったが、その後各施設持ち回りの事例報告とこれに関する討議が基本プログラムとして定着。 ：リハビリ関係者、病院（地域連携室）、看護師、医師会が集まり、毎月 1 回午後 6：30～8：30 までの 2 時間開催している。 ：毎月 1 回の開催を続けるため、会場は関係者の持ち回り、時間厳守といったルールを設けている。また、参加者同士の顔の見える関係をつくるため、車座、はじめに自己紹介（現在は初回参加者のみ）などの工夫も行っている。 ：研究会の成果として、患者が持つ簡易カルテ「三方よし手帳」（転院等の際に機能する）や会員数 400 人超を数える「三方よしメーリングリスト」、各種イベントの企画・開催、より小さな地域で一般市民も参加する子研究会の発足などが展開されている。

▼事例③

名 称	：在宅医療従事者能力向上研修会		
特 徴	：柏市の成果を踏まえて国立長寿医療研究センターが提唱し、各所で実践しているプログラムである。		
取組内容	：講義と事例紹介・演習を組み合わせたプログラムで、最後に各自で目標設定を行うことが基本的なプログラムとなっている。		
	：4時間のリーダー養成研修は以下の通り。		
	研修会のプログラム（約4時間）		
	開会・挨拶	主催者挨拶	10分
	講義	【講義】在宅医療・介護に関する最新の知見	20分
		【講義】行政の取組	20分
		【講義】医師会の活動	20分
		・質疑応答	10分
	事例紹介	【事例】連携拠点事業での体験 ～自分が担った役割や困難の解決方法 ・質疑応答	10分 ×2事例 10分
	休憩	（休憩）	15分
	ワークショッ プ	・実施方法の説明	15分
		【演習】ワールドカフェ：在宅医療連携体制構築における各職種の役割と活動	110分
		・テーマ①地域課題はどのようにして把握できるか	
		・テーマ②自分／自分の職種ができることは何か	
		・テーマ③体制構築に向けどんな活動が考えられるか	
：2.5日の多職種連携研修は以下の通り（0.5日分の実地研修は医師のみ）。			
在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会 （基本開催例：多職種研修1.5日＋実地研修1.0日コース）			
1日目 -午後半日 -合計245分	【講義】在宅医療が果たすべき役割 【講義】在宅療養を支える医療・介護資源 【演習】医療・介護資源マップの作成 【講義・演習】がん緩和ケア（領域別セッション） ・懇親会	30分 15分 40分 160分 (90分)	
実地研修 -半日×2回 -約360分	【実習】以下のようなメニューから選択 ・訪問診療同行 ・訪問看護同行 ・ケアマネジャー同行 ・緩和ケア病棟回診	180分 × 2回	
2日目 -終日開催 -約360分	【講義】在宅医療の導入 【講義】訪問診療の実際と同行研修の意義 【講義・演習】認知症（領域別セッション） （ 昼 食 ） 【講義】在宅ケアにおいてなぜIPWが必要なのか？ 【演習】在宅医療推進上の課題と解決策（グループ討論） 【講義】在宅医が知っておくべき報酬や制度 ・目標設定、発表 ・修了証書授与	20分 20分 160分 (60分) 20分 90分 20分 20分 10分	

6. 次年度の取組方針の検討

6-1 検討部会の開催

職種・協議会間の情報交換と勉強会の企画・進捗管理のため、年3回程度の開催を目指す。

特に勉強会については、平成26年度実施した勉強会（第1段階の勉強会）の次のステップとして、連携の質の向上を目指す「第2段階の勉強会」の開催を主要な検討テーマとする。

<全体の動き>

- 今年度の勉強会と同じ顔合わせの第1段階を継続して開催する（①）
- 第1段階を3回程度開催したら、参加者を一堂に集めて第2段階の会を開催する（②）
- ①、②の検討の結果を受けてテーマ勉強会や研修会等への展開を目指す（③）

<職種（協議会）毎の動き>

- ①、②と並行して、協議会毎にそれぞれの職種に対する評価や出された課題について対応を検討する（②'）
- ②'での検討の結果を受けて、各職種の協議会主催による講習会等を開催し、自職種の意識改革や他職種への情報提供を行う（③'）

6-2 介護と医療の連携シートの改善

利用した事業所からは高評価を得ている一方、利用率が低いことが最大の課題となっていることから、書式等の基本的な部分にはあまり手を入れず、PRをして利用率を上げることを最優先で取り組むこととする。例えばアンケートの結果報告に際して、資料の送付だけでなく報告会等を開催することなども考えられる。

その他、個別の改善点については以下のような対応を検討する。

- アンケートで得られた情報をもとに最初の更新を実施
- その際、事業所名50音順の一覧頁や検索用地図（Webの活用を想定）を作成
- あわせて、連絡窓口の設置など情報の更新のためのシステムの構築を検討
デジタルデータ化の検討
必要事項のみ表示してコピーができる型枠の用意を検討 など

6-3 他職種協働による会議の開催

6-1で示した内容を1つのパッケージ（日野市型）として、今後も継続して勉強会・研修会を開催していくこととする。特に次年度は、最低でも次の2点を実施して基本型を確立することを目指す。

- 第1段階の勉強会（①）を数回開催
- 第2段階の勉強会（②）または各会提供のコンテンツ（③'）を1回開催

6-4 国、東京都・他自治体の取組等の調査

検討部会での検討にあわせて引き続き事例の収集を行う。特に、「勉強会」参加者を対象にもう一歩進んだ「第二段階の勉強会」の実施が大きな検討テーマとなっているため、こうした事例の収集を中心に行うこととする。